

## 事業所職員向け

## 児童発達支援自己評価表

この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。

「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	今後の取り組み
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	88%	12%	日によっては人数が多く窮屈に感じることがある	①基準は満たしているが、実際に過ごすとなると、人数によっては窮屈に感じる場面もある。広い部屋もいくつかあるので、他の部屋も有効活用しながら子どもたちが快適に過ごせる環境設定を行っていくようにしていく。
	2 職員の配置数は適切であるか	100%	0%	基準以上の職員を配置し丁寧な支援を心がけている	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%	0%	年齢に応じた環境の調整をしたり、刺激を少なくするといった配慮をしている。年齢ではなく発達段階に応じたクラス分けをしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%	0%	毎日館内を清掃し清潔を保つようにしている。週1回以上は消毒拭きをして感染症予防に努めている	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	63%	37%	情報の伝達がうまくいかない。ごしようという話し合いが行われるが、その後どうだったのかという話し合い、振り返りの場が少ない	⑤朝礼や終礼の仕組みを見直し、伝達事項や検討事項が伝わるようにしていく必要がある。前回の反省で上がった内容や引き継ぎ事項について、その後どうなったかという振り返りの機会が十分にできていないので、終礼時に確認をしていく機会を作っていくようにする。  今回の自己評価、保護者評価を参考に業務や支援の改善に繋げていくようにする。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	75%	25%	今年度、初めて実施したので今回の結果を踏まえ業務改善につなげていくようにする。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%	0%	ホームページや事業所内の掲示板にて結果を公表していく	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	88%	12%	外部評価について、他職員も共通理解として共有していきたい	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	法人内部の研修や外部の研修に積極的に参加している	
適切な	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%	0%	利用開始前に面談を行い、生育歴や発達の様子を確認し、現在の困りを含め計画書の作成を行っている。相談支援とも連携して行っている。	チームでの立案ができる時とできない時がある。話し合いをしてから作成できると良いと思われるが、現実的には時間が足りず、業務の関係上全員が揃うことも難しい。1日の業務内容の見直しを行うことで隙間時間を確保することができそうなので、時間を確保しながらクラス毎に活動内容の検討等を行っていくように取り組んでいく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%	0%	心理検査の結果と面談の際に使用する児童向けのアセスメントシートを使用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	ガイドラインを参考に支援計画書の作成を行っています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	88%	12%	共通理解ができていないことがあった。	

支 援 の 提 供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	88%	12%	チームで行える時と難しい時がある。個人の経験頼みの部分もある。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	繰り返し行っていくことで評価する活動プログラムと、日々流動的に変わっていくプログラムがあり発達段階に合わせて実施している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	100%	0%	成長に合わせた個別活動と集団活動の目標を設定しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	88%	12%	朝礼にてその日の活動プログラムや流れを確認している。 朝礼に参加できない職員がいる日もある	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	毎日終礼と朝礼を行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	毎日、利用した全員の記録をとっている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	定期的に面談を実施し、また相談員とも連携して行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	21	相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	0%	管理者及び児童発達支援管理責任者などの職員が参加している。	[28]幼稚園や保育園、こども園に通いながら児童発達支援を利用している児童が多いため、日頃から交流の機会が自然と持つことができている。希望がある場合には就学、就園前に事前に様子を見に行ったり先生と繋がれるような交流機会を個別に設けている。今後、交流を持てる保育園やこども園、幼稚園、学校を増やしていきけるよう働きかけていく。  地域の保育園やこども園とは保育コーディネーターの先生方を中心に情報交換や連携・協働をしており、その繋がりは年々密度を増していています。また学校等の教育関係とも会議や訪問支援を通じて交流が深まってきていますし、より率直な意見交換ができるようになってきています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	88%	12%	健診等に出向き関係機関と協力しながら発達支援に取り組んでいる。地域の保育コーディネーターとも連絡を取り合いながら協働した支援を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	0%	0%	受け入れ実績がないため、評価できず。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	0%	0%	受け入れ実績がないため、評価できず。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	保育所等訪問支援に加え、必要に応じて電話連絡等を行いながら情報交換を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	必要に応じて学校だけでなく教育委員会とも連携して就学に向けたサポートを実施している	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%	0%	必要に応じて大分県発達障がい者支援センターと連携し、保護者の相談対応や地域支援を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、子どもと活動する機会があるか	75%	25%	個別に実施している。 全体での実施はしていない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	100%	0%	自立支援協議会に出席をしています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	定期的に面談を実施しています	

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	88%	12%	臨床心理士を中心に保護者のグループミーティングを行っています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	利用開始前に行っています	[35]父母の会については保護者の負担が増す可能性も考慮し、地域にある既存の親の会をご紹介させてもらいながら、保護者同士の繋がりの機会を作っていけるようにしていく。また保護者のニーズに合わせて親子通園日をご紹介するようしていく。  [38]二重チェック体制をしっかりととり、個人情報の保護に努めています。また重要な書類は施錠できる棚にて保管をするようにしています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%	0%	面談時に説明をし同意を得ています	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	定期的に面談機会を設け相談応じると共に、必要に応じて電話相談や面談に随時対応をさせて頂いています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	88%	12%	父母の会はないが、保護者連絡会を開催しています	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	相談や申し入れがあった場合には、担当職員から返答をさせてもらっています。苦情等があった場合にはすぐに会議を開き再発防止に向けた取り組みを行っています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	なかよしだよりを年4回以上発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	88%	12%	二重チェックの体制が不十分だった	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	iPadを使って説明をしたりしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	100%	0%	地域交流祭の会場として地域との交流を行っている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%	0%	各種マニュアルを整備している。	定期的に避難訓練を実施しています。また総合避難訓練の際には消防署の方々に来て頂きスーパーバイズをしてもらっています。危機管理委員会を中心に防災研修や備蓄品の管理等を行い、災害対策を進めています。  てんかんやアレルギー等については利用開始前に必ず確認をしている。万が一てんかんやアレルギー等の発作があった場合の対応について、緊急時の対応を取り決めて利用してもらっている。職員も緊急時の対応ができるよう、AED講習やてんかん発作についての研修を受講している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	定期的な避難訓練を実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	88%	12%	アセスメント段階で確認し周知している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	指示書に基づいて給食等を提供している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	ヒヤリハット報告をファイルにまとめている。毎月の会議でヒヤリハットの報告と検証、対策を実施している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	法人内部研修に参加している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%	0%	個別支援計画書に記載をしている	